

いのちいっぱい 感動いっぱい ~ ありがとうの旅を続けよう! ~

最高のハッピーバースデー

「せーの♪ハッピーバースディトゥーユー ハッピーバースディトゥーユー
ディア校長先生…♪」

始業式式辞後、席に戻ろうとした私に、突然歌声が…。突然始まった子どもたちと先生方からのバースデーソングサプライズ。今年の始業式は、たまたま私の誕生日と重なったということもあって、私にとってはとても幸せな一日となりました。そして、

「校長先生、還暦おめでとうございます。今から三重跳びをします。見てください。」

これは、6年生Sくんからのサプライズ第2弾。全校で元気よくカウントした三重跳びは、なんと20回。みごとに披露に更なる喜びを感じた私でした。その後も、バースデーカードを持ってきてくれたYくんやSちゃんやRちゃん。廊下ですれ違う度に、「おめでとうございます!」と言ってくれた喜須来っ子たちに、深い深い感謝の気持ちでいっぱいになりました。みんな、本当にありがとう!



Kくんの二重跳び



3学期初日の昼休み。大谷翔平さんからもらったグローブでキャッチボールをする子どもたちの傍らで、縄跳びをしているKくんの姿がありました。「んっ?」私は、一目でKくんの体の締めまりを感じたのですが、その後のKくんの縄跳びで、その理由が読みました。それは、Kくんが冬休みに継続して二重跳びを努力したという事実です。2学期の終わりには、まったくできなかった二重跳びが、軽やかにできるようになっているKくんでしたが、冬休み中の努力はすごかったようです。体も引き締めまり、表情までも明るくなっているように感じました。何よりも、自分自身に対する自信がみなぎっていました。学級担任の先生も、「すごいじゃないか!」と賞賛し、Kくんの努力は報われました。周りで見ていた子どもたちも、嬉しそうに見てくれていました。

成長には、周囲の支援は必要ですが、何を置いても自分自身の心が動き続けることが大切です。三日坊主では、成功への道は開けません。何がKくんの心を動かさ続けたかは分かりませんが、今、Kくんはすべてのことに積極的で、堅い殻から抜け出したような気がします。

「がんばれ、K!」

応援し続けたいと思います。

「ありがとう」には愛がある

朝の通学路は、通勤される方々の車でいっぱいです。ドライバーの方々も、できるだけ近道をという思いがあって、細い路地を行かれる方が多く、子どもたちの集団登校とどうしても重なってしまいます。ただ、日土や喜木を通るドライバーの方々も、子ども達の安全を思って、スピードを出される方はほとんどおられません。常に配慮していただきながら通行していただいています。

私も神越側と磯岡側に一日交替で立ち、子どもたちの登校を見守っていますが、この3年間で大きく変わってきたことがあります。それは、横断歩道で止まっていたいただいたドライバーの方々に対する子どもたちのお礼の挨拶の仕方です。私が赴任した頃は、あまりお礼を言う姿が見られませんでした。徐々にその姿が以下のように変わってきました。

- 最後尾の副班長さんがお辞儀をする
- 副班長さんが「ありがとうございました」の声とともにお辞儀をする
- 先頭の班長さんがお辞儀をしながら横断する
- 下級生たちが、班長さんにつられるように声を出す
- 班員全員がドライバーさんに少し体を向け、お辞儀をしながらお礼を言う
- 最後尾の副班長さんが、きちんと止まって完全にドライバーさんの方を向いて、大きな声で「ありがとうございました」と丁寧言う



この3年間で、喜須来っ子たちの地域の方々への「ありがとうございます」が増え、自分が安心安全に生活できるその訳を感じ始めているように思えます。それに加えて、子ども達同士が無言で集まるのではなく、「〇〇ちゃん、おはよう。」と互いに声を掛け、楽しくおしゃべりする姿も少しずつですが見られるようになってきています。

先日朝も、「Sちゃん、おはよう。」と下級生に対して視線を下げ、目を見ながら声を掛ける6年生のMちゃんの姿や、止まってもらったドライバーさんの方を完全に向き、深々とお辞儀をしながらお礼を言う副班長5年生Sくんの姿に出会いました。

「Mちゃん、いいねえ。」「Sくん、すごい!気持ちがいい!」

にこっと笑って私の前を通り過ぎたMちゃんやSくん。声が出始め、行動に移せるようになると、それが当たり前になり自信を持って取り組めるようになります。そして、その行動があらゆることにつながり、すべてのことが大きく前進する。MちゃんやSくんの大きな成長は、まさに自分自身を越えたところに見つけたものだと思います。

そして、これらの子どもたちの成長の影には、毎朝見守り声掛け続けてくださっている見守り隊の皆さんや保護者や先生方の日々の声かけや励ましがあることを忘れてはならないと思っています。

雪が教えてくれたこと

今年一番の寒波が訪れ、今日は八幡浜にも雪が舞いました。毎日中休みに、体力づくりと持久走大会の練習として、全校で10分間走をがんばっている喜須来っ子たち。今日の10分間走はどうするだろうか先生方の指示を待っていましたが、「予定どおり行きます！」と放送が。同時に、校舎から「わーっ！おーっ！」「やるでー！」の声。そして、誰よりも先に教員二人がグラウンドへ。次々出てくる子どもたちを誘導しながら、いつもと同じように10分間走が始まりました。雪の中を颯爽と走る子どもたち。雪に興奮して叫びながら走る子ども達。「ファイトー！」「がんばれー」「さみいー！」いろいろな声が入り交じりながら、躍動感あふれる子どもたちの群れ。いつもよりも数倍も元気に走り続けた子ども達。持久走が苦手でもは苦しそうに走っている子どもたちが、全速力で走る姿も。そんな子どもたちの姿を見ながら、昔々、私が聞いたこんな会話を思い出したのです。

- 一 A：今日は雪がすごいから、子どもたちに靴下の上にナイロン袋をかぶせて靴を履かせばいい。
B：何を言ってるんですか。そんなことしたら逆に危険です。それよりも、雪の中を歩くと靴下も靴もこんなにびしょびしょになるんだということを体験させることのほうが大切です！
- 一 A：先生、こんな雪の降る寒い日に、なぜ子どもたちを外で遊ばすんですか。風邪でもひいたらどうするんですか。
B：すみません。でも、お母さん、〇〇くん、とっても楽しそうに遊んでましたよ。
A：そんなことありません。家へ帰ってきてから、今日無理矢理外で遊べて言われたって言ったんです！

私は、雪を見ると思い出すことがいっぱいあります。昔は積雪量がすごかったものですから、この地域でも“かまくら”を作ることができました。かまくらの作り方は、雪だるまのビッグ版をいくつも作り、それを合体させ、さらにその間に雪を詰め込み、大きな雪の半球円を作り上げます。そして、入口を南側に作り、そこから大小のスコップで掘り進んでいく。“かまくら”作りは、びしょ濡れになりながらも寒さを忘れ作り続けた子どもたちの冒険でもあります。親や地域の方たちは、私たち子どものその“生きがい”を奪わず、「おお、今年は大きいのができたのお」そんな励ましをくれたながら笑って見てくれていました。「早くやめて帰れ！」なんて大人は一人もいなかったのです。それは、子どもの世界と大人の世界を混同せず、子どもたちが、今、生き生きとしているかしていないかを見抜いてくれていたからです。無理矢理大人の世界に引きずり込むのではなく、子どもは子どもの世界で学べと教えてくれたのです。さらに、風邪を引いたら、そこから自分の体をどう守るかという大切なことを、体験を通して学ぶのだと、静かに教えてくれたような気がします。子どもの時に体感したことは、大人になっても忘れない。雪は、そう語っています。



みめいこんとん

「今朝は、すごい寒いねえ。」

「はい。」

「空には雲一つないし、霜が降りてるし、こういうのを冷却現象って言うんだよ。冬の現象だね。」

「へえ～(空を見上げる)」

「前田山も寒いやろねえ。」

「ぜったい寒いですよ！(´_`)」

朝の挨拶で立ってくれていた6年生のNさんと何気ない会話をしながら、その日も前田山を見上げながら登校指導に向かった私ですが、凜とした冷気で身が引き締まり、そして、Nさんとの会話で心が温まり、なんだかその日の足取りは軽く、さわやかな気持ちでした。

私は、夜がまだ明けていないこんな朝に、いつも思い出す坂村真民の詩があります。

- “ 私が一日の内で一番好きなのは 未明混沌のひとつときである
私はその混沌の中に 身を投げ込み 天地と一つになって
悪魔の声を聴き 神の声を聴き 阿修羅の声を聴き 諸仏諸菩薩の声を聴き じっと座っている
天が叫び 違うなるのも このときである
明解と融解との区別もなく 男と女の違いもなく 人間と動物の差別もない
すべては混沌の中に溶けあい 悲しみもなく 苦しみもなく 命に満ち 命にあふれている
ああ私が 一日の内で 一番いきがいを感ずるのは この未明混沌の ひとつときである “

子どもの時には、決して感じなかった自然と人間との不思議な関係。この詩に思いを寄せるとき、「ああ、私も少しだけ年を取ったのだなあ」と感じるのです。